

平成 27 年度 市政懇談会（総領会場）

会 場	総領自治振興センター
日 時	平成 27 年 7 月 24 日（金）
出席者数	参加者 29 人、市 14 人
共通テーマ	メインテーマ：「第 2 期庄原いちばん基本計画について」 サブテーマ：～第 2 期庄原いちばん基本計画の概要と高齢者向けのアンケート結果について～
地域テーマ	「子ども事業の取り組みについて」
懇 談 内 容	
■共通テーマ メインテーマ：「第 2 期庄原いちばん基本計画について」 サブテーマ：～第 2 期庄原いちばん基本計画の概要と高齢者向けのアンケート結果について～ （参加者） 総領自治振興区では、昨年度より福祉プロジェクトということでひとり暮らしの方又は、高齢者のみの世帯の方について、各自治会と一緒に考えている。 さきほどのコンパクトシティの話であるが、資料の図をみると、どの箇所へも小さな文字で「中山間地域における、国が示す集約の形態」ということになっている。総領地域でこのコンパクトシティを考えると、合わないところもある。今の説明の中では、「もう家を手放して、こういったところに入りたい、共同生活したい。」という方達がいるという話があったが、地域内を回っていろいろなお年寄りに話を聞くと、「この家は先祖から受け継いだ家だからこの家は私一人になっても絶対手放したくない、手放してはいけない。」という方が何人もおられる。 私はこのような人達の生活を大事にしていきたいと思っている。当然、屋根も傷み床も抜けてきたし、この家はもう自分ではどうすることもできないという方達も多くおられる。でも、そういう人達があきらめて家を出られるということは、覚悟のうえだと思う。 自宅を手放したくない方に視点を当てて考えると、コンパクトシティで高齢者住宅、集える場所があつて、夕方から朝にはそこで過ごし、朝になったら「行ってきます。」と言って、自分の家に帰って農業なり家の周りの片づけをして一日を過ごし、また夕方になったら採れた野菜等を持ち帰り、皆と一緒に食事をして過ごす。一人での食事はとても寂しいので、皆と一緒に食べれば楽しい食事になるのではないかと思い、自治振興区ではそういうところに視点を当て考えていきたいと考えている。 また、昨年、福祉プロジェクトを提案させていただいたが、1 年間、福祉プロジェクトに取り組んで、アンケートの実施や、聞き取りをするなどして、このような形が良いのではないかというものが見えてきた。それは、総領中学校の元寄宿舍を利用して、宅老事業を進めることである。平成 29 年 4 月に介護保険法が改正されるときには、利用してもらえるような状態にしたいと考えている。今年 8 月から、実証実験として宅老事業を自治振興センタ	

一で行う予定である。主に一人暮らしの男性に参加してもらう予定で、一人暮らしの男性はどうしても食事ができなかったり、酒におぼれてしまって、朝から酒を飲んでフラフラになったり、栄養がいき届かない方達がいらっしゃる。自治振興センターの中で2、3人から始めていければ良いと考えている。皆さんの集える場所にし、平成29年4月には、それが元寄宿舍へ移行できればと考えている。

市がコンパクトシティという将来像を説明されたが、ぜひ、市も一緒になって元寄宿舍の活用とか、皆さんと一緒にこのコンパクトシティが良い方向になるように取り組んでいきたいと思っている。ご支援をお願いしたい。

(市)

貴重なご意見に感謝する。先ほど言われたように、高齢者の方に家を手放して、必ずこちらに出てきてくださいということではない。提案があったように、夜や不安な時期に集いのスペースに住んでいただき、反対に今住んでおられる家の方に出勤していただき、農業等をしていただいく、そういうイメージも考えている。

近い将来で考えているのは、支所周辺の拠点で取り組むこととなるが、将来的には、集落の維持が困難になれば一定の集落ごとに集えるスペースを設けることを想定している。

総領地域では、元寄宿舍を活用して宅老事業をされるとのことなので、市としても参考にさせていただき一緒に取り組みたい。

(参加者)

市長が言われる庄原いちばんのことは私も非常に嬉しく思っている。

第2期の基本計画を説明していただいたが、第1期の庄原いちばんの基本計画に対してどう評価されているのか。目標を満たしたのかそうでないのか。

計画的にできてない事業もあると思われるが、何が悪いから第2期はこのような事業を掲げたとか、そういう意図が分かれば、より皆でやっていこうという気持ちになれるのではないか。第2期の計画についても、そういう評価をきちんとしていただいて、市民に分かるようにしていただきたい。第1期の計画では、産科再開について説明があったが、実際できたのか、できなかったのか。

(市)

第1期計画について、優先的に進め成果が上がっているものもある。一方、産科の再開についてはあともう少しというところまで来ていたが、医師確保ができず残念ながら、実現できなかった。これについては、引き続き要請や取り組みを行っており継続していく。

第1期計画の事業を2年で実施しているが、成果がすぐに表われないものもあり、基本的には第1期で始めた事業は、継続実施が基本となっている。2年間の成果を検証し問題がない事業については継続しているが、一部の事業は内容の充実や変更をして取り組んでいる。例えば、第1期では教育に関する事業が少なかったため拡充して計画へ計上している。

(参加者)

お願いをさせていただきたい。

第1期計画から気になっていたが、資料に「観光、農産物、文化、伝承などの資源を有機的につなげる地域資源の活用」とあるが、地域産業のいちばん、暮らしの安心のいちばん、にぎわいと活力のいちばんの中で、文化伝承というところがあまり取り上げられていない。

文化活動をされている人が、元気になる事業が計上され、こういう活動を支援していきたいというのがあれば嬉しい。ぜひ検討いただきたい。

(参加者)

Iターンで総領町の木屋に引っ越ししてきて約6年となる。私は、潜在的に都会の若者の中には、庄原市のような中山間地域に移住したいという方が、増えていると考えている。若者を受け入れる施策をもっと増やしていただきたい。

それから、高齢者のことについて、年金や医療など将来が不明確な状況であり、いかに元気に、病気にならないような暮らし方ができるかを考えていく必要がある。予防施策をこれから取り入れて欲しい。地域の中 devenir べく人に迷惑をかけないように暮らすためにはどうすれば良いか、医療費を少なくするためにも病気にならないようにする生き方を考えてほしい。

(市)

貴重なご意見感謝する。

病気にならないような施策を考えて欲しいというご意見であった。病気にならないためには、自分の健康は自分で守らなければならない。具体的な方法としては、介護予防を進めていきたい。

もし、介護や支援が必要となったときや、病気になったときは、地域で支えられるようなしくみづくりに取り組みたいので、今後もよろしくお願いいたします。

■地域テーマ「子ども事業の取り組みについて」

【自治振興区から説明】

(市)

大変素晴らしい企画をされ、実際に取り組んでおられる。地域を支えて動かすエンジンとなるのは、教育であると考えており、その教育の基礎は、人づくりである。次代を担う子どもの育成は、待ったなしで、いかにして子どもたちを育てていくかが私たちの使命であると考えている。

庄原市に生まれてよかったと思えるようあらゆる施策を行っていきたいと考えており、その柱の一つが学校、地域、保護者、家庭がみんなで子どもを育てようということ。それがまさに総領では実践されている。総領地域での取り組みは、先進的な取り組みである。何より自ら課題を分析されていることが素晴らしい。課題を分析し何をどう取り組んで克服し

ていくか、具体的には、放課後子ども塾であるとか、地域と結びついている節分草のボランティア、あるいは総合型スポーツクラブを新たに設立していくなど、バランスよく網羅されている。

ぜひ、この取り組みを進めていただき、子どもたちを地域の皆さんで育てていただきたい。

(参加者)

先ほど説明された子ども事業について、財源として自治振興区活動促進補助金をいただいている。この事業を続けていくのに何か財源があれば教えていただきたい。

(市)

総領自治振興区では、昨年度、自治振興区活動促進補助金を活用され、資料として示されているアクションプランを策定されている。また今年度は、このアクションプランに基づき実際に事業展開されているところで、今年度についても活動促進補助金を活用されている。しかし、自治振興区活動促進補助金は、自治振興区の課題解決に向けた基盤を整備していくという補助金で、次年度以降で同じ内容での活用というのは該当しない。

(市)

先ほど補助金の継続は難しいとの説明をしたが、該当する国や県の補助金が無いか調べているところである。該当する補助事業があれば自治振興区へお知らせしていきたい。引き続き情報収集、提供を行っていきたい。

■ 市長まとめ

大変多くの意見を頂戴し感謝する。われわれも、庄原いちばん計画をしっかりと進めていきたい。

庄原いちばんづくりは、庄原市に住んでいて、つい見失いがちなもの、例えば、米、野菜、そして牛、これらをブランド化しPRしている。第1期庄原いちばん基本計画の事業の中では、こだわり米や比婆牛のブランド復活は、成功した事例だろうと考えている。

意見の中に計画に計上された事業の評価をすべきとの意見があった。われわれも評価し、検証しており、検証した結果、子どもたちに対しての施策が足らなかったのではないかとということで、中学生の英語検定受験の支援、合唱コンクールの開催、また庄原の子どもの中から世界で活躍するアスリートを輩出するため、アスリートの育成事業を創設している。これらの施策は、広聴事業で実施した懇談会から市民の皆さんからいただいた意見を参考にさせていただいている。

第1期庄原いちばん基本計画で実現できず、特に残念だったのが、産科の再開である。これは医師不足で、どの地域も困っている課題であるが、庄原市は県内でも優先して再開すべき地域として医師が確保されていたが、大学病院の医局の都合もあり産科を再開することができなかった。広島大学そして広島県としても、庄原市の産科再開を優先的に取り組んで

いくということは確約いただいております、産科再開に向けて市としても取り組みを継続していきたい。

次にコンパクトシティだが、総領地域では、すでに総領中学校の元寄宿舍を活用して宅老事業を検討されている。ぜひとも進めていただきたい。私が考えるコンパクトシティは、無理やり集落移転させようというものではない。しかし、10年先、20年先をみたときには、やはり地域が荒廃していくことが懸念される。その時に、総領町を通り越し、庄原市を通り越して、広島市へ出る、福山市へ出る、もっと遠くへ行くといったことを防ぎたい。総領地域であれば総領支所の周辺へ住むことができる環境を作り、高齢者の方がこの地域を離れることなく、この地域で安心して暮らし続けて欲しい。まずは、モデル的に2地域程度から取り組みをはじめていけばと考えている。

最後に、私たち行政はしくみづくりをしていくが、これを活用し実現していくのは皆さんである。これからも、みなさんからさまざまな意見をいただき、皆さんに喜んでもらえるような施策を行っていきたい。今日は本当に熱心にご意見をいただき感謝する。これからも庄原市、また、われわれに対してご指導いただきたい。